

1. 研究主題

思考力, 判断力, 表現力を高める教育活動の創造
～ 「聴く」「考える」「伝える」活動を取り入れた班活動を通して ～

2. 主題設定の理由

本校では、これまで「思考力・判断力・表現力を育む授業の在り方」をテーマに、授業研究を中心として、学校研究に取り組んできた。さらに、平成28年度は、学力の3要素を意識し、「基礎・基本的な知識・技能」「主体的な学習態度」を身につけさせる取り組みを土台とし、言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力の向上を目指している。これらの取り組みにより、「授業力の向上(教師)」、「学習規律の確立、発表への意欲化(生徒)」など、一定の成果を収めることができたが、また同時に、思考力・判断力・表現力向上の分析方法や効果的な研究体制など新たな課題も見えてきた。

本校の生徒は、素直な生徒が多く、何事にも前向きに取り組むことができる。これまでの取り組みにより学習習慣が確立されつつあり、学習・生活の全般において何事にも意欲的に取り組む生徒が増えている。しかし、人の話をよく聴き考えて行動することや、間違いを恐れず自分の思いを積極的に発言することなど努力してほしい点も多々残されており、互いに考えを聴き、伝え合うことのできる学びの集団づくりを、今後も目指す必要がある。

今年度は、授業研究からさらに発展させ、教育活動全般(教科・道徳・特別活動・短学活等)において、「聴く」「考える」「伝える」活動に取り組むことで、「思考力・判断力・表現力の育成」を試みる。これまでの取り組みも継続しつつ、学年会を研究組織の中心に据え、学年生徒の実態を把握し、より具体的で効果的な実践を行っていきたい。コミュニケーション力が備わり、主体的に行動し、意欲的に学ぶ生徒を育てることにより思考力・判断力・表現力の向上を図り、研究主題に迫るものである。

3. 研究仮説

全教科・全領域において、「聴く」「考える」「伝える」を意識させた班活動の場を設定すれば、主体的にコミュニケーションをとるなかで、自分の考えを他と比較して考えたり、より深く考えたりするなど意欲的に学ぶ生徒が育つとともに、思考力・判断力・表現力の向上が期待できるであろう。

4. 研究の方向性

- (1) 生徒の実態を把握し、全教科・領域において、適切な「聴く・考える・伝える」活動を取り入れ実践する。
- (2) 家庭学習と授業との学習サイクルを構築し、基礎学力の定着を図る。
- (3) 言語活動を中心に、学力向上の視点から授業の工夫・改善を図る。
- (4) 発表マナーを全教科・領域で意識させ、コミュニケーション力の向上を図る。

5. 研究内容

(1) 理論研究

- 生徒の実態を把握する。
- 「聴く・考える・伝える」活動について研究する。

(2) 実践研究

- 理論研究に基づき、研究授業・互見授業を行い、生徒の変容を分析する。
- 言語活動を積極的に取り入れた授業を継続的に実践する。

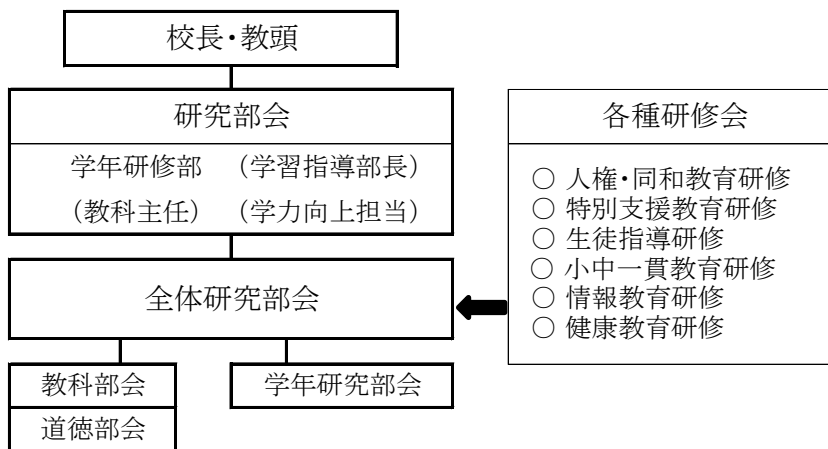
※授業研については、各学年2学期に実施する。

- | | |
|------|-------------------|
| ※短学活 | ・一分間スピーチを取り入れる |
| | ・テーマ(各学年・各学級で決める) |
| | ・スピーチの後感想(1～2人) |
| | ・担任の入れ替え(月に一週間程度) |

- 全領域において、発表マナーを定着させる。
- 基礎・基本の定着を目指し、家庭学習の習慣化を図る。

(3) 研究仮説を検証し、研究の成果と課題をまとめる。

6. 研究組織



7. 研究計画

- | | |
|-------|--|
| 4月 | ・今年度学校研究計画の決定
(研究主題, 主題設定の理由, 研究仮説, 研究の方向性, 研究内容) |
| 6月～3月 | ・実践研究 (短学活, 一分間スピーチ) |
| 6月 | ・理論研究① ○ 生徒実態調査 ○ 「聴く・考える・伝える」活動について |
| 8月 | ・理論研究② ○ 実態調査の分析 ○ 研究授業・互見授業について
○ 2学期の具体的な取り組みについて |
| 9～12月 | ・実践研究 (教科研究, 学年研究授業, 互見授業の実践) |
| 1月 | ・学年研究のまとめ(成果と課題, 次年度の取り組み) |
| 2月 | ・全体研究のまとめ(実践研究の検証, 成果と課題) |
| 3月 | ・次年度の研究の方向性について |